

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農村教育推進費

事業名 農福連携推進強化事業費補助金（R8実施分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 担い手対策室 就農支援係 電話番号：058-272-1111(内4091)

E-mail : c11419@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 8,283 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|------------|-------|---------|---------|-----------|-------|-------|-------|-----|---------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 産 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 現 計 予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 補 正 要求額 | 8,283 | 4,141 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,142 |
| 決定額 | 6,713 | 3,356 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,357 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

依然として続く物価高の影響は、農業や加工品のコスト増加を招き、農福連携に取り組む事業者の経営を圧迫している。農福連携を継続し、取組を拡大していくためには、生産された農産物や加工品を高単価かつ安定的な販売に向け、農福連携の認知度向上を図る必要がある。

そのため、ぎふノウフクサポーター等との連携を強化する事業に加え、ノウフクマルシェやPRイベントの開催等、体感及び理解を深める機会を創出することにより農福連携の更なる普及拡大・認知度向上を図る。

(2) 事業内容

①ノウフク商品販売促進事業

- ・ぎふノウフクサポーターに賛同する事業者の登録、支援
- ・（新）「農福」の表示がされた「ノウフク J A S」商品のPR
- ・SNS等を活用した情報発信
- ・県外事業者との交流による意識及びスキルアップ

②農福連携魅力発信事業

- ・県内外の先進的な農福連携事業者が生産した農産物や加工品をPR販売するノウフクマルシェの開催
- ・岐阜県の事例とともに全国の活動事例を発信するPRイベントの開催

(3) 県負担・補助率の考え方

地方創生推進交付金（地域未来交付金）補助率 定額、1/2以内

(4) 類似事業の有無

有 農福連携推進活動事業費補助金（交付金事業分）

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|-----------------|
| 補助金 | 8,283 | 農福連携の推進事業に対する補助 |
| 合計 | 8,283 | |

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・清流の国ぎふ創生総合戦略
- ・3（3）①農林畜水産業を支える人材の育成・確保
- ・「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）」
- ・岐阜県障がい者総合支援プラン（R6～R8）

(2) 国・他県の状況

令和6年度食料・農業・農村基本法に農福連携が新たに位置づけ

(3) 後年度の財政負担

多様な主体の農業への参画や就農促進は、「ぎふ農業活性化基本計画（仮）」における基本方針として位置付けられている。

(4) 事業主体及びその妥当性

令和4年に「農福連携推進本部」を設置し、全庁的に農福連携の取組を推進することとしており、県での実施は妥当

県単独補助金事業評価調書

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

(事業内容)

| | |
|-----------|--|
| 補助事業名 | 農福連携推進強化事業費補助金 |
| 補助事業者（団体） | （一社）岐阜県農畜産公社 （理由）（一社）岐阜県農畜産公社ぎふ農福連携推進センターがワンストップ総合窓口であるため。 |
| 補助事業の概要 | （目的）農業分野における障がい者の就労促進を図る。 （内容）（一社）岐阜県農畜産公社の事業に要する経費を助成 |
| 補助率・補助単価等 | 定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）事業費10/10 （理由）県の重要政策課題として推進するため |
| 補助効果 | 農業分野における障がい者就労を促進することで、岐阜県農業 |
| 終期の設定 | 終期 令和12年度 （理由）現在検討されている「ぎふ農業活性化計画（仮）」に定める内容・目標年度に従い、事業の効果を検証する。 |

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
現在検討が進められている、令和8年度からの「ぎふ農業活性化計画（仮）」に定める内容・目標年度に従い、目標値を設定する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R6) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R12) | 達成率 |
|------------------|---------------|------------|------------------|------------------|---------------|-----|
| ①新たに農福連携に取り組む主体数 | | 24 | 20 [累計] 20 | 20 [累計] 40 | 累計 100 | — |

| 補助金交付実績 (単位：千円) | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
|--------------------|------|--------|--------|
| | - | 10,524 | 17,033 |

(これまでの取組内容と成果)

| | |
|-------|--|
| 令和5年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふノウフクサポーターの登録：50団体 ・ノウフク商品のSNSによる情報発信 フォロワー数：約500人 ・全国農福連携マルシェinぎふの開催 出展者：27団体、来場者：約20.6万人 ・農福連携魅力発信バスツアーの開催：2回 ・県外マルシェへの出展：1回 |
| | 指標①(障がい者の農業への就労者数) 目標：561 実績：625 達成率： 111 % |
| 令和6年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふノウフクサポーターの登録：新規78団体 ・ノウフク商品のSNSによる情報発信 フォロワー数：約1000人 ・全国農福連携マルシェinぎふの開催 出展者：50団体、来場者：約21.7万人 ・農福連携魅力発信バスツアーの開催：1回 ・オンラインマルシェへの開催 出展者：18団体 |
| | 指標①(障がい者の農業への就労者数) 目標：636 実績：738 達成率： 116 % |

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|--|--|
| (評価) 3 | 農業・農村の高齢化が懸念される中、障がい者の農業での活躍が期待されるとともに、社会参画を促進する取組みである農福連携は、社会運動と捉える必要がある。また、地域共生社会の実現にもつながり、誰一人として取り残されないというSDGsの理念にも通じている。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) | |
| 3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満） | |
| (評価) 2 | 農福連携に取り組む主体数は順調に増加しており、すでに令和7年度の目標を達成している。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) | |
| 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 1 | 障害福祉課が実施する事業と合わせ、（一社）岐阜県農畜産公社が実施することにより効率化を図る。 |

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

農業者と福祉事業者、メリットやお互いを理解し農福連携に向かう機運を高めるとともに、障がい者が働きやすい環境の整備を促進する必要がある。

農福連携の認知度は未だに低いため、消費者の認知度向上に向けた取組が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

農福連携は、障がい者が農業分野において農業を支える人材として活躍することで、農業の継続・発展を図るとともに、障がい者が自信や生きがいを得て社会参画を促進する取組みであるため、双方の課題の解決につながる「社会運動」と捉えて推進する。